教句題砂子

明治癸未の歳四月十六日之
東山黎明八幡宮
[illegible]

發句題砂子二集惣目錄

夏之上

四月 初丁
卯月 更衣 二丁
綿抜 二丁
袷 白重 五丁
夏衣
夏羽織
單物 青簾
筑广祭 六丁
葵祭
祭 大矢數 七丁
施米
千團子
佛生會 灌佛
花御堂 八丁
練供養
夏籠 夏書
夏斷
古茶
鮓 九丁
青嵐 十二丁
松魚
麥秋 十丁
麥 十一丁
花葵 十六丁
牡丹
芍藥 十四丁
燕子花 十五丁
玉卷葛
紫羅傘
玉卷芭蕉

罌粟 十七丁
著莪 十八丁
苣花
豆花 十九丁
風車
茨花
白丁花
美人草
茶挽草
夘花
桐花 九丁
柿花 九一丁
繡毬花
梭欄花
花柚
橘
余花 九二丁
若葉
若楓 九四丁
青葉
新樹
ゆゝ葉
藤若葉
葉櫻
葉柳 九五丁
夏柳
實櫻
茂
夏木立 九六丁
木下闇
常磐杢落葉
竹落葉 九八丁
藪椿
筍
蕗
茄子 九九丁
蓼
新茶
葉撰
風呂
郭公
鶯入音 卅二丁
老黄鳥 卅三丁
閑子鳥

鷸 卅四
鼓部
部葦鳥
蝙蝠 卅五丁
枝蛙
蛙黽
毛虫 卅六丁
蝸牛
蚋
子子
蚤
飛蟻 卅七丁
水馬
蛙
蚰蜒
蟇
蚊
蚊柱 卅八丁
蚊遣
蚊帖 卅九丁
夏之中
五月 四十丁
皐月
菖蒲
菖蒲酒 四十一丁
菖蒲打
菖蒲打
菖蒲湯
菖蒲刀
印地打
蓬背
粽
笹粽 四十二丁
柏餅
藥日
幟
飾冑 四十三丁
加茂競馬
竹醉日
雨 四十四丁
花菖蒲
石菖蒲

藻花　萍　沢瀉 四十五ウ　河骨
花旦見　眞菰苅　藻苅舟　蓮若葉
蓮浮葉　蓮　苔花 四十六ウ　夏菊
百合　紅藍花 四十七ウ　合歡花 四十八ウ　紫陽花 四十九ウ
椎花　粟花　栴檀花 五十ウ　山梔子
南天花　花柘榴　花橘　十薬花
瞿麥　常夏 五十ウ　石竹　懸釣草
酢漿草　薄若葉　蔦若葉　莨草
一ッ葉　覆盆子　桑實　藤實
茶挽草　青梅 五十一ウ　樗　若竹
今年竹　竹皮散 四十二ウ　瓜花　天瓜花

早松茸　早苗　田植 五十四ウ　田植哥 五十五ウ
早乙女　流苗 五十六ウ　初蟬　蟬
空蟬 五十七ウ　蟬時雨　夏蝶　蠅
蠅虎　灯取虫　夏虫 五十八ウ　螢
水鳥巢 六十ウ　水鷄　水札 六十一ウ　羽抜鳥
練雲雀　鵜川 六十二ウ　鵜舟　鵜匠
簗打 六十三ウ　鮎　翡翠　鴨子
夏鹿　鹿子　通鴨 六十四ウ　照射
火串　干鯰　有無日　入梅
梅雨晴 六十五ウ　五月空　五月曇　五月雲
五月闇　五月雨　五月晴 六十六ウ　短夜

明易夜　夏夜 六十八丁　夏月　帷子 六十九丁
辻ヶ花　薄羽織　晒布
夏之下
六月 七十丁　水無月　氷室　氷餅 七十一丁
祇園會　嘉定　不二詣　土用
土用干 七十二丁　虫干　夏日　暑
日盛 七十四丁　炎天　夕立　夏雨 七十六丁
雨乞　雲峯　風薰 七十七丁　扇 七十八丁
團扇　汗　汗拭　掛香 八十丁
日傘　簟　竹婦人　抱籠
竹奴　籠枕　涼臺 八十一丁　座頭納涼

涼　打水 八十三丁　清水　晒井 八十五丁
一夜酒　心大 八十六丁　葛水　冷汁
水飯　水粉　冷物　干飯
梅干　漆取 八十七丁　枇杷　李
楊梅　林檎　百日紅　蓴菜
凌霄花　藺花　櫻麻 八十八丁　夏草
青苴　釣鐘草　鷺草　忍冬
風蘭　紫蘇　青鬼灯　萱草
麻　綿花 八十九丁　夏蕣　鼓子花
夕顔 九十丁　青瓢　瓜　胡瓜
新麥 九十一丁　田草取　川狩　小鮒

鯖釣　沖鱠　晝寢　夏瘦
夏神樂　御祓　茅輪　形代　九十三
川社　月涼　露涼　夏坐敷
夏雲　夏山　赤ちゃん山　夏野
夏川　九十四　夏海　夏水　秋近
晩夏

發句題砂子夏之上

冬至庵庚年　輯
八雲東溟　校合

四月

[illegible]
白雲の[illegible]四月の[illegible]山
[illegible]四月の[illegible]
[illegible]四月の[illegible]
[illegible]四月の[illegible]
旅人の[illegible]四月の[illegible]
[illegible]四月の[illegible]

[illegible]
[illegible]外
成美
岳格
卓池
平波
[illegible]山

苹山ゝひろの月四月の部　永谷
人参せり馬の汗ふき四月の部　素柳
雪ゆきゝ中四月の山の姿ゝ　鶴鶴
世ばの紙ふすまをむ卯月の部　為白
山椒中卯月ゝ雨ゝの雑ゝの考　筏芷
鉄砲の意ゝ卯月の部　歩経
蕨ゝ考蕨山ゝ卯月の部　梅空
蕗月の本ゝ卯月の部　白部
古ゝ生魚の事卯月の部　里松
卯月雑中紙ゝ雨ゝ方の業　寒松
胡瓜の苗ゝ卯月の部　平山

更衣

閑居の汚ゝ卯月のゝ部　真祇
一ゝ紙ゝゝゝゝ卯月の部　ゝ義
泣魚のゝゝ中ゝ卯月ゝ更衣　景空
西行ゝ姿ゝゝ衣ゝ　文考
衣ゝ山ゝ部ゝ　乙由
衣ゝゝゝゝ常の部ゝ　景蘭
衣ゝゝ中ゝゝゝ花ゝ　聖坡
掃除ゝゝ手ゝ衣ゝ更衣　仁里
物一ゝ衣ゝゝ更衣　蓼太
酒吾のひゝ意ゝ　晩臺
けゝゝゝ父のゝ部ゝ更衣　士朗

衣の〳〵打たる事なつかしけり　外六
雄たる事なる哉　更衣　南枝
雲居ひさしいたるとなれけり　更衣　一面
袖ひぢぬれもてまけれと衣の〳〵　貞山
よいたる社　仙洞　更衣　一仙
哲つ事ら先〳〵ふりけり　更衣　二丘
古郎より沼郎ら先〳〵　更衣　梅室
家前よりこそ　新卒　衣う〳〵　柴美
衣の〳〵　襟もたるやこそ　傘下
山も人も衣うとけり　家の所　山分
ひる過やけもせぬ夕の　更衣　閑更

辻駕よりき人乃せ　衣う〳〵　蓼村
生もの〳〵　遠ふる　更衣　京猶
海遠ふる伯のやうや　衣う〳〵　宗因
雲ふる　四ふる　やうや　芋ふる〳〵　秋夕
ふる子や　生ふる　更衣　尚白
人中ふ　旭さ　衣う〳〵　乙二
生ふ　ける　塔の　更衣　蓼紀
苔の　雲　ふる　更衣　三津人
加茂川の　ふる　更衣　有芳
更衣　ふる　衣　徒高
ふる　ふる　無　更衣　卓池

綿抜

くるひうちはぎとり抜て五衣　武義

わらはやまひの区さうの嫁の子　諸茅

わらはてをうちたるやもの多　椿茅

綿抜やそ〳〵ときの秋の怖しき　袁蓋

わらはてをすまうさそ〳〵まのちう　千代

綿抜や世ちの本の百れ子の生姿　椿宝

うるはてをもの小白中ちく黒光　丁宝

綿ぬきや五さちそ枕ちゆう　号阿

一と絵と袴ちやそ五本うう　幻芝

さうそ人ちうそ例と袴れ　其角

牧のきちのとうそ袴条　百明

袴

一りそ也ちうきく袴の郎　吾仲

二りの三の方と源角ちう袴れ　息賈

門ちう袴ちひとりうちうの　千代

袴のとりいく五さうそけり　一具

出ちうんきそうんち袴や唐出路　沙路

商人の一除ちりはやちう袴　抱保

乗一人の百古擦ちけう袴れ　千格

ぬき袴ちあうちうけう袴条　松什

長元の小石脱ちり袴の郎　二丘

わらひきと叩て元ちう袴の郎　其流

出先ちう袴と乗ちう袴ちけり　多碁

素柳

貞祇　茅之
禾月　槐堂
（赤穂）
鶴年　山高
松軒　獨碌
（信濃諏訪）
井洪女
（信華）
佳峰
梅窓

一遠　欽哉
基路　演吉
（五十音）
深雅　護物
斗道　永保
悠々　概亨
東儀

白重　硯蓋に傳ふるつゝ　白重
白重うつき皆中とうの出ん　蘭重
白重一百くゝと和や明ん　夢太
夏衣　墓の明るとき　袷けり夏衣　撥花
稜うくあるうとうとう夏衣　ノ旦
夏羽織　百鳥くゝ先て夏羽織　慈光
夏羽織　黄山
夏羽織　一映
草物　草物草の り数　ニ清人
素麺　五位六位　素麺　巖雪
素麺　百明
うつくしひまとものとうた　素麺　兎七

今うつ　新うつ清　瑞瑞殿や　素麺　其角
宗々雅氣毋　毋　素麺　尚白
毋素ふ素や　素麺　若人
蘿ーつ尺えぬ　素麺　椿哉
茶乃素麺　素麺　角女
素麺　素麺　氷狐
椿市や　素麺　素麺　うつく
生活　素麺　素麺　野々
かのくゝ　素麺　素麺　立椿
家素麺　素麺　素麺　紅頃
素麺　素麺　素麺　英父九

屋根をそなへたるやうなれ　吾
乙也
護物
小圓
彎形
去来
禮良
脱臺
真角
為白
古庭
形失

筑紫
古船といまだ易きものなれ
ともまてかく
船のもり毋り合せたるけり
砂鹿り蓼古ものとなり見ひ那
兵弁の喜ら蓼乃多ら
ひの下のたし蓼多ら
当附も書ものきひび
佛ものの人やとまつり
庭まてく鬼ら多ら
平ものの自ひら

蓼
祭

立生く先立ものの多ら
義武古平舅砂門を移まつり
掃所のかりて立ら矢数乗
陣かりまて吉平く大矢数
吉者の寿先吉者一大矢数
入ものり施米の底の砂埼
子圓子
佛生舎

永年
左記
蓮宇
黄恵
南枝
一映
泳沼
乙由
由誓
丁知
吾凡

玉圓
第之
米南
波同
[illegible]
甚角
百里
冥更
完来
日人
小柄

薩佛

御の[illegible]御生寄
沙[illegible]
服の[illegible]薩[illegible]御生寄
書所[illegible]
薩佛や[illegible]御生寄
薩佛や拵る別る[illegible]
薩佛や[illegible]入れの大佛
寺[illegible]
天[illegible]
方[illegible]佛の[illegible]
薩佛や[illegible]

左乍
右隣
乙由
寺碑
一具
由擔
[illegible]
第之
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
和戎

花法堂

薩佛や隣を[illegible]
薩佛より[illegible]
いろいろの軒の[illegible]
[illegible]代や四る八十花法堂
[illegible]人の[illegible]
四方[illegible]
川[illegible]
花[illegible]
[illegible]
子を[illegible]
[illegible]
[illegible]花堂

練供養 行ひ奉り奉り鳥なる小家うれ　　奉村
夏 義 百ゝ年ゝ年ゝ年ゝ百ゝ年一度ゝ　　白雄
　　外の面きてゝ伝ひ山ゝ百ゝ　　一映
夏書 ゆゝとゝもつく加ゝ加ゝ奉ゝ百出ぶ　　奉村
　　ほくゝと百出の奉の命うれ　　乃峯
　　仮城の百出やきゝ山百鶏　　其角
　　新飯ゝひとゝ加ゝ加ゝ百出うれ　　祖々
　　百出ゝ家ゝ山ゝ山ゝし外の新　　蕉雨
夏 郎 百郎せん人ゝ人ゝ奉　　重厚
　　つゝ百ゝ百郎の中ゝ百ゝ鶏　　文蕉
古茶 古茶ゝひとゝ加ゝ世年　　素々

鄙

郎礼ゝ仕舞ゝ禅ゝ鄙ゝ飯
飯ゝ山ゝ茶の屋鄙の打ゝ
鄙梅ゝ山ゝ加ゝ加ゝ百ゝ百の
鄙ゝ唐の梅ゝ山ゝ梅梅
鄙茶ゝ茶ゝ高ゝ寺の男うれ
蕉の家百ゝ百ゝ鄙一歩
鄙ゝ加ゝ加ゝ加ゝ加ゝ湾ゝ
飯ゝ山ゝ舟ゝ鄙ゝの山ゝ
　　鶏ゝ百ゝ山ゝ山ゝ
　　大勢の中ゝ一本
　　月ゝ山ゝ松魚の背ゝ百ゝ

古来 本国 宗因 鶏年 東聚 蕉古 乙二 篤老 素堂 百明

松魚

少そこて時を取りのり松魚を
ぬ人を強盗の一名初松魚
松の弓矢を盗人よりの松魚
あけぬのや義を直へき初松魚
初松魚書せを扇をそけり
二人まを家ゝの死てまの松魚
まつ赤をいてまあれと松魚れ
初のつをとる井をぬを世ひけり
井をうをを家て長也初松魚
さつをと入盗をつして初松魚
ろをを行ぬをや初松魚

昼夕
大江丸
晩壺
三井人
由樽
集英
貞徳
角安
花外
可吟
春文

梅宝
白起
卓池
唐白
松什
丁宝
李郎
一鶴
英父丸
百也
盛年

初松魚
川ゝ人せを仙をや松魚
急をゝ男松仙やを松魚
侍のまけて魚ゝぬをのつを
あけをを男家れや初松魚
魚をつてひをつてを松魚れ
ゝ壺を出をつを松魚の殿
釣主の名札をを初松魚
寿をゝ山をの中や初松魚
松魚売つを家を入をを
寿をを用ゝ鮫ゝ初松魚

鮎毋の霜ふる松魚の光ゆきのれ　麁ゝ
初松魚賣と買ふの人等等　乎格
ゆきの次つく鮎や初松魚　仍蕉
初うりの白の沸しまわれけり　牝像
一見くく口果報なしまつ松魚　黒麦女
ふり搖ゆぬ鍬のまつをを　山分
行駒の麦よりなむやうなる　ゆきぬ
家のおれ麦や独ゝ知ゝ多の新　丈等
麦うれや内分なき志賀の里　重五
庵廻ゆふまつまつけり麦の秋　浪化
麦秋や赤ゆんゝしの一人等　百明

惜揮の支度てつゝや麦の秋　本葉
ゆゝしの脚ゝ麦の刈や麦の秋　尚白
ゆゝしなせとけつく出や麦の秋　一具
子をつれゝ庭人も来ゝ麦乃秋　蓬宇
麦秋や豆腐のきれゝの宿　陸因
ゆゝしさうにもなりゝ麦の乱　幻芝
宮古ゆひつゝなりて麦のちき　由梨
馬ゝゝ鞭ゝ人ゝ麦乃あ秋　堅策
ふ麦ゝ豆ゝ屋敷ゝ麦の秋　仍北
舟義の馬人ゝあゝ麦や麦の秋　洪水
麦畑ぬ人ゝ麦秋仕事ゝ郎　山骨

麥

麥秋や子を負ひ角力取　定穂
むぎの穂や条宮殿の子泊　蕉窓
あれ野なむしのうち地麥の秋　素樸
うれそめる白川月や麥の秋　古素
麥秋や殿岩の力こぶ行き　夷則
ちぢ出さいの種とむぎ一穂　玄察
稍ちる麥穂いやしや作ろう　荊口
秋山りのそ家叫や田麥う　月庵
背戸の麥うれく一日のそ人　乎月
麥むさ麥のわうや白い國　根下
穂ふ生れハ一品ち紅田麥れ　乙二

麥秋

麥畑

麥畑や子神鄰のちくと　成美
麥ちし宮ちと苗乃色　之色
むしろたてたる麥刈麥あし　士朗
麥ちし吹や山陰の家ちせて　色矢
注連張ちたちちや麥あし　貞祇
夢さめて兵庫ちの麥あし　通甫
門海ち汐うちちけて麥あし　山外
石川や流色出ちと麥畑　山雄

拾月　竹賀　雜唐　文遊　子結　丁知　東海　子代　鬼貫　許六　花重

白島　支考　子代　大江丸　蕉風　雅重　朝月　白島　支考　子代　大江丸　蕉風　朝月　白島　支考　子代　大江丸　蕉風　雅重　朝月　白島　支考　子代　大江丸　蕉風　雅重

正面よりたる日のうへに牡丹うゑ
岡山乃坊ゝ名ゝる牡丹うゑ　永禄
うしろゝ篇ゝ両の牡丹ゝ　西月
山際のゝくゝや牡丹の花乃嘗　盛元
引提ゝ拿ゝ一ゝき牡丹か　千鶴
邪广寺寄ゝ牡丹奉　文昇
礼云ゝ播ゝ歌ゝ牡丹れ　亨ゝ
剣り和つゝきの牡丹う那　貞祇
小白ゝ一ゝ一ゝ硬ゝ牡丹れ　宗徳
数きゝ又一ゝの牡丹ゝ　演吉
二ゝ輪咲ゝ乃牡丹れ　逸月
　　　

一重咲く人驚き牡丹の郎
陶きて今葉もそなへ牡丹が
られて咲うけく牡丹の名付け
遠く来く大夢らく牡丹の花 出雲
鋏のあくるを飛く牡丹の花 哥月
牌遣りて一日ちて牡丹葉 風也
芍藥や跡は庭八重の花 鶴年
芍藥ようき十葉の義尊の郎 支考
芍葉や終度そのうちの井戸 江戸 尚白
五六代芍葉つくる山家の郎 柳雅
芍葉や鼠に隠れなくなる家 士朗
道義

梅室
梅通
護物

燕子花

杜若はうつや修羅の影
のきつもつ夏へあれば
紅の葉のもつきや杜若
やもきもを赤に初つる杜若
もの鈴鹿能の山雨や 杜若
田舟もきく人あるもの
杜若の日を掛きく咲けり
有餘を赤に染つ
かきつもつ常も天の人
汐風の音ふく庭や燕子花
水もきくひく燕子花

太祇
甚角
玄来
岩望
丈学
江月
島蓑
山外
永年
梅通
杜有

蕙子花ひらくや杜乃ひと栄
初恋と筆てよせるや杜若
凋まてる恋のさめぬやうきこと
涙濡る夕陽くれやつまこと
筆のひかり紅をや杜若
逢ふまゝに抱くを通るや恋の色
蓋はなる黄ひらけり杜若
なをあるひとゝ抱くを民杜若
抱くまゝ一枝筆やはなこと
ちれと筆を二度と筆ゆ杜若
一ちゝ今年を切ゝ恋子色

苔礼
吟義
由撰
春文
赤樸
其流
槐堂
九翁
燭孤
文樹
盛年

生涯ゆ涙をつまこと
筆の跡ゆ掬へ唐ゆ杜若
芝原や田まゝしあてて杜若
切ゝと見ゆ筆ゆ杜若
池中ゝ変ゆ水ゆ杜若
筆ゝの世ゝゝつと蕚杜若
切ゝ事く涙くれけり杜若
杜若は涙ゆ居さり けり
海山ゝ思ひ水ゝ杜若
筆ゝゝゝゝ水をけゆ杜若
鼓うけや ゝゝゝゝ杜若

梅宝
蕙礼
氷弧
白部
子韜
燈ゝ
一角
赤赤
白樂
濱吉
逗流

一夏ゝ切ゝゝ長き葵子哉　梅通
佐夕のあけくゝ侍や　杜美　完徳
花葵　忘て咲くの名ゆゑし葵哉　才麿
那須ゝゝ丈のまゝゝ葵哉　岩泉
笈尺ゝ白の夕やあつひ　仙化
青ゝゝゝ哉ゝ里のあつひ　純可
居酒屋の人の世成ゝ葵哉　幻芝
玉巻菊　菊の名葉哉ゝ巻の哉　曉臺
紫羅傘　一八や夫れの細ゝを活ゝゝ　青川
一八や笑咲つく屋根の上　三岳
玉巻芭蕉　日の長ゝ来ゝ芭蕉哉　小義

蠶豆　白けゝや時の白の時つゝん　玄来
舟系の一濃留主やけゝの哉　文考
いくゝ市ゝの世ゝきわい世けゝの哉　金雀
押合ぬ先へゝゝけゝけゝの花　智月
陸奥ゝ祝ゝ会けゝの蒼哉　英角
散陸奥ゝゝのまゝけゝの哉　系更
ゝゝゝゝぬけゝ御けゝ陸奥　曉臺
頃ゝゝけゝけゝの一ゝゝ哉　士朗
松のけや長ゝゝゝけゝの哉　笑美
なゝの日けゝゝゝ松の陸ゝあり　完来
白ゝの京形けゝの哉ゝゝ哉

ふるゆめ家のうしろやけのこれ　貞徒
月さえて淋しくなりぬけしの花　為之
あけさ戸のあつちこちやけしの花　尾張　金雄
障子や寒新屋の灯けしこそ　水孤
咲なるこ一ひらちるやけしの花　勾芝
風敷やけしふるえる風もれて　子格
とりくこ咲こちる少々今の花　抱儀
寒ゆるまなるまけしの一重これ　梅宝
ちる手除ふんせこ咲こちる今の花　春白
なまれるこ八重なるこあるけしの花　江二
あけしをわて白けし拔ひけり　皎堂

けし咲やうこ安もなきこ屋　上総　東之
切ちもあちのなりけしの花　素柳
けしこくや酒賣家も細俳　籬屋
けし拔し人ゆかりなる先方　華堂
日をかしきこ切んこの花　仙阿
何のまなくけしちこれ　多非
ゆ永ちこ安こやけしの花　蘭和
けしの花ちねちなるこ　陸奥　清民
このこれ扇こけし西日れ　多ゆ
白けしや隣のこ遠これの底　京　箕風
数こしくけしの花一ツ　素樸

花けしやうさかりなる　乙二
ひとつ家や十かまりけの花　百明
稚ひとして西のしけのもれ　松軒
泥除の垣ともちらおけの花　義推
一りんあるをしさはぬけしの花　阜池
けし数やちるや嘆の襟花　風朗
けし一本拾て寄さまの手すく　乙居
却て程白うちらんけしの花　慈光
猶ちらまちけるけしの花　若机
ちらちらと若葉うつる蘇の雲　梅通
かるまるちらき跡ちらく芦の花　傑芳

著莪
芦花

豆花
風車
菊花

白丁花

押あるよりかくさくや豆の花　琴多
塵の夢むすぶ風車　巴文
老菊古の色は残るの郎　垂村
紅葉の煙うつるつく菊の郎　若机
春の雲ちらと分て菊の花　阜丈
菊の花材ちあるつ人うつ等けり　丁雲
縄ちけてあるふるや菊の花　千鶴
山吉や馬もちけまて菊乃花　住月
ちちきのわるひ吉や菊の花　一具
材ちあるつ人全て白丁花　文逸
先位の引うけしまて白丁花　小圃

美人草　一映
茶挽草　雨考
　　　

卯の花や牛のまゆ[illegible]村さめる　洗我
卯の花や出代の古乃男うれ　梅令
接穂や卯の花らしの和泉　一具
卯の花乃ゆうてんや貧家れ　卓池
卯のうれもまゝ拾ひ男の那　士朗
卯のうれの中うゝ五ち和乃人　雄英
卯の花や二階のちの寂なき　仆外
麦ゆゝ人の卯の花さけり　乙二
卯の花や人うゝ[illegible]ちれ色　梅宝
人やゝ十とも卯の花乃ゆれ　保吉
犬のゆの鳴くまもや桐の花　洗我

桐花

梅井
素樸
蕉党
佳節
稲湖
奇淵
左老
南枝
湾丸
其翠
三園

梨花

梨の花月うけて塚のうまさまりのけれ
山伏乃家のうゝ乃や桐乃花
庄中の古木ゆうれ梨のうれ
梨のうれもやとろうと青葉
柚のうれの香を隔てゆや梨の花
峠うゝ里人えてゆ梨のうれ
とれとても古木らゝうゝゆや梨の花

繡毬花

小てまりや篇生ゝまの小束垣

樓桐花

桐のうゝ葉ゝ掃きてちれ樓桐花
古寺や偽なきめうれ土百乃花

掃きのこなしいりかけり樹間花　庾江

花柚

柚の花は芳香の花の中にて種類の名　太田

行家さうなく花柚を尋ひとを　言水

柚の花や庭へちる序あり　影堂

盃に落るとゝ見えるまれ柚うれ　舟仙

今汲しいれみうけるまれ柚うれ　丁史

柚のまれの庭中白しや鶏四　九角

葉ゝまれ中葉かゝる柚の花　籬庵

ひと枝を夢い出てる花柚うれ　夢古

花柚みようゝ〻の簾かな　白雄

埃載しよ柚の花白ふ白ふの那　江戸　雲山

柚四の中より高く柚うれ　玉枝

秋ゝ〻ゝ虫葉を繰るまれ柚の子　午心

余花

四五輪の余花もかゝる暮りうれ　浪華　右角

日ゝ山に入けり余花に一あるゝ　慈光

若葉

若葉ふく風や菖の刻ゝゝ　風雪

ゝゝ若葉の中の若葉ゝ　其角

ゝゝ若葉ゝゝ若葉ゝゝ若葉ゝ　定良

夕立に若葉のうへのわゝ葉うれ　荊口

若葉吹さゝくゝと雨ゝゝ　雅然

樹の木ゝいゝゝ高ゝ若葉うれ　哉人

舟の除さゝゝゝ出ゝゝ若葉の内　三巴

其とひらまるとてりかうしまの事ハ
板人の葉子紙と出まるまの事れ
勢ひまるのうひまるまの事の形
ゆけしき一日多ハ月まの事れ 浜華
ゆうまやまの事まるまちうせのあ
ゆゑ今年出来さまるまの事れ
縄りをとうしくんこけわうまの事
板義屋の見世ようまの事ハ
まの事れ又一信の日永の事
奥のあるまの事より月の品ようれ
振つるぬ手拭出しまの事ハ

風也 碓山
節之 蘭秀
多ようあ 浜
塚兄 樹枝 浜華
由拾 井梧
抱儀 子稔
梅宝 信年
豆来 義之
信年 麻交
平波 柳承 浜
慈光 所后
宗明

むまうの事のうりやわうまの事ハ
うまうとまの事まるの形や 浜
まの事ハ月のうけわ義月 浜華
ゆうまの事ハ月の品ようれ
年元ようまのおのわうまの事れ
まの月ようとおうまの事れ
生うしきまの事の井梧のうの
衛門ようりの事うしまの事れ
凍うれうるとおうまの事れ 浜
降出うまうまの事うのわうまの事
戸ゆ生ようまの事やうとゆうまの事ハ

材木の道く好る者多くれ　ちゝ和
ケ子も好く書者の多く集　発明
さらさく布さわ多く集　東海
川つゝく流れる多く集　伊勢
みをつるさまを多集　美濃
入おの家布さうく多集　太柄
陸さ多れうる多集の那　丁忠
八者の多集あひわ多集　播ア　一唐
切掛さ多く多集の多集　京文
めつゝ多の者はくわ多　五波
一野り深く多集の多　田風

多楓

俗正の書き一筆や わら楓　喜角
馬さ筆さ良さ多く や多楓　阜紙
多楓葉色さ多一さう　曲翠
筆さ多さ筆さ多れ多楓　一魚
筆さ屋さ多多楓　播ア　号夢
屋さ屋さ又多屋や 多楓　沙酌
筆さ屋の筆さ多多筆さ多　有芳
多楓さ多せぬ筆さ屋多楓　南渓
わら楓多作さ屋さ多　抱儀
火用心さ書さ家搭や わら楓　蘭和
わら楓の見越しや多楓　壺柳

[illegible]　梅宝
[illegible]　孔雀
[illegible]　黄山
[illegible]　黄机
[illegible]　文子
[illegible]　寸長
[illegible]　獨雄
[illegible]　等也
[illegible]　鈴年
[illegible]　慈光
[illegible]　鬼貫

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

義

月の宮いろうまさりて桜の実
ひとしく接て桜の実
居るて陸奥の宮や桜の実
木とあいの乳坂の実や桜の実
夕栄や義うまさる川の吉
拿の吉して歩る義りこの那
推童の面て吉ある義まれ
舟出せまさる人の歩る義れ
吉けく礼を吉く義りあ
宮吉を義しけまる義り心
吉吉行栖年ゆ義まこの那

椹武　義則
夷則　丁巳
一巳　丈子
土芳　子格
江三　鶏鳴
梅宮　九角

夏木立

ちいちのなるわく接る義りれ
まれの時杉まを吉れく義まか
杉ゆく法吉まる義りれ
笠ゆく乗栖まけ義まる那
舟場まる杉ひまゆ義まる乗
まれまむ推の木まあり夏木立
地の第まあまきりの也夏木立
踏行酒の浅義まるくや夏木立
神ゆまゆ宮まんまて夏木立
篠接くゆままて夏木立
神ゆまを乗ゆ家や夏木立

義光　夷樸
夷伯　江月
江月　雨童
吉伯　鬼貫
鬼貫　常因
常因　宗文
宗文　千崖
千崖　乙二

里のけしき契りぬる友木立　聖義
下蔭や地蛍かるるの塚の苔　嵐雪
牛引船の過る山路や木下闇　白尾
下闇や居風呂よりの奏聞の帰　角麦
木下闇とも里遠き名ばかり危　松海
夕寄せ来る蛍ちらちらや木下蔭　蕉
俳諸への往来ぬる木下闇　雄之
見うしなうまめ心や木下闇　丈子
常磐木の蔭蔭や涼よりあむ吉松茶　ちよ代
常盤木の蔭茶屋や鐘の銀　文鮮
ちらと見る涼の為に松茶屋　清所

仲蔭茶　時雨よりくく仲の蔭茶屋
白風ふかるる仲の蔭茶屋　護物
大仲ふ和つまれく樹の外　一映
仲の子や雪降よりる嵐の坊　警雨
仲の子や仮初の席のうちも　嵐雪
子を負の仲の子ふれ仲生時　鬼貫
名残ふるのの仲の子夢ひとり　去来
筝の琴や樹乃ふるる里　卓池
筝や遠よ今ふる蛍すしき　丁雨
仲ふるや荷物しる表の中　護物
仲ふるとふる丹精や人ふる　波回
　　梅宝

蕗

さゝや筆仆さなるこゝもり
仆の子や赤や世義を祝ふる
仆のゐる所ゝ蕗のある自然れ
仆の子や親子粉まで拾の外 京
仆の子や結教なるゝ五六寸
仆の子結其りとゝ結まゝり
仆の子を養ふせる百姓ゝ兎
仆の子や紙で包む粉一のゝ
子ゝせうといへゝ迷世ふき節り
子附やふきの葉ゝりの夢ゝゝこ
何むしのゝふゝや蕗の陰つきぬ

梅令
近原
菜子
船村
古城
南枝
山外
東海
乙州
汲村
曲象

茄子

うれしゝゝ兎所ゝゝ茄子
牧の牙ゝゝ茄子ゝの那
昔ゝまゝ義れの茄子汁
茶仆ゝゝあれ所ゝ茄子
義のめをもぬゝや初茄子
新米ゝ添ゝゝ他の茄子れ
手紙ゝゝ打ゝけりゝ茄子
陣へもゝせゝ庚ゝや初茄子
はゝりゝゝゝ一初茄子
小所ゝ皆あゝ家中夢の蕗
ゝゝ花の夢ゝ乃雨

原蕗
為有
ゝ氏
北枝
梅宝
洗我
素樸
探二
礫山
遺表
古節

蕈

新葉　閑吉さまぬ浮世の新葉ぶ　文考
風よ君のつくり出す新葉ぶ　園女
既るこせ新葉よ新一点まう　一映
菓撰　指の戸をうれ君をうれ菓撰ぶ　蕉翁
大鍋おいらをうへ菓撰ぶ　史邦
風呂　夜風呂や清水吉さんぶ　宗因
風呂の蓋の夜明よりし細葉　重房
郭公　おもきぶ郭公指ぶ　やもの上　其角
おもきぶ一二の指の数ぶ　蕉堂
以燈を用の数ぶ郭公　蕉堂
おもきぶなるや文字　去来

指燈のそ後ぶ　杉風
おもきぶ郭公や酒のさぶ　文羊
口ぶく夏郭公　宗鑑
数の浪灯白し　鬼貫
なるぶ笑ぶ　きぶ
浮きぶ蛍の　くいる蛍魂
くうやちぶ郭公　為白
同ぶ菓山おもきぶ　傘下
おもきぶ一おもきぶ　素堂
石蒜の新霧かぶ　杉風
四五月のうなぶ　惟然
おもきぶ　許六

かとゝきすまゝ宮ぬ宮の雲
出るまゝに月の入る郭公
おもひもむかしよ時雨
かとゝきす窓ゝうゝして人待つ
宵武
月良
利平
言永
子代
夢也

郭公
北枝
立芳
宵武
月良
利平
言永
子代
夢也

閑更
晩臺
凡董
士朗
角安
一晨
月庵
吟雪
卓池
西月
通南

郭公
閑更
晩臺
凡董
士朗
角安
一晨
月庵
吟雪
卓池
西月
通南

かとゝきすまゝ宮ぬ宮の雲
出るまゝに月の入る郭公
おもひもむかしよ時雨
かとゝきす窓ゝうゝして人待つ
宵武
月良
利平
言永
子代
夢也

奥山や花ちるゝ人のかとゝきす
かとゝきす屋ゝ時雨ぬゝし
時雨かゝゝ松のけしき哉
かとゝきす初ひ松ゝ月松葉
吟雪
上洛よむひあゝ
里ゝうゝ
通ゝ人二時ゝ郭公
山風ゝ
ゝくまひて一本松ゝ
かとゝきすかゝゝ

井の井ちまさ市のくらし時分
市とさとくらし月ちまさ
まさ行くはまちせをい先時分
遊び中只一まつの市とさし
市とさしいくあをやきけり
市を出くかあるやうな郭公
市とさしかーるる雨の上ちう
月の白のうかりとさし
ちかの末とかうく郭公
かくくかくるあとし市とさし
市とさし時ぬをを我まうせ

由掾
遠流
山馬
仁里
雷鳴
蒼乱
有人
樗堂
成美
完来
蔦三

市新里
乙二
月居
蝶巣
住年
我雲
羽人
素析
也雄
風光
右高

市とさしの川はをとまう
ふる雨よ信つけうとさし
三まかく松をさうとやは時分
高の灯の照よつく宵やとさし
市とさしかーる一村あるやほとさし
只宮ちう寿の陰かりとさし
今のういまわをれうとさし
只ちうかくさうとさし郭公
夏ちかくくまをとさし
湯ちりのかれ松をやは郭公
大海へまちるしてはちやとさし

陸奥

折あの雲をうるわし郭公　濱ゝ
なくこゑ山はなれたる中　古翠
山ゝをかすみたる行ゝ郭公　稲洲
あの雲ゝ白うあるゝ上なきゝ　宝上　東海
海原ゝ年を祝ん浮ゝ武ゝ　聖菓
家毛ゝ茅ゝ一のやゝ郭公　貞山
なくゝきゝ山ゝねけわ物ゝけり　篤之
深山本ゝ初郭公郭公　菖居
馬場なれぬゝ列のゝ蜀魂　蓋光
蓋の上風ゝけゝわゝきゝ　蝶二
なくゝきゝ歴ゝの一ゝ　江戸　蘭秀

とゝゝ毛ゝゝ一時ゝ　英父朱
葉ゝゝ行やゝ巣のあゝゝ郭公　梅令
雲所やゝ深のゝ毛郭公　助宣
晴ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　素撲
なくゝきゝ山ゝやゝ郭公の声ゝ　羅庵
一ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　万江
郭ゝゝの中やゝ物言のなくゝ　茂雅
山路毛ゝ長りゝゝゝ郭公　風朗
ゝゝゝゝゝゝゝ鶯ゝ物ゝ　大梅
鶯を絵ゝゝゝの風ゝ一時鳥　松什
汗のゝ屋ゝゝ時ゝゝ　山外

上理さくに行者のを和時者
田変や何りまとを氏郭以
所作を作き文飯島和時者
面や三風者の者和者氏
打く竹をく上けり郭以
三日月ぬ本百遠寺時者
雪を作く設へまをて郭以

管文者

管や者を入く只者い者
者をみく数者を寄けり
者をみく管を中りをを居
者をみく管をふき寄けり

抱潘
潘蕉
子格
生小
梅通
林曹
梅宝
鬼貫
蕉仙
梅宝
李白

老管

管や 管数と老を 帝
老をけく黄和のひきを
牙のかをき老黄和里四
黄者の老く澄拙やをを
管の老をも行めをれけり
時けくを黄者を老をけを
管の舌をを老和老を
管を老けり管を義を接を
や例く数黄者を老をけり

周子者

うを者を佛くを世を家子者
やをくを出く時氏家子者

蕉義
柳宝
梅井
を世氏
文子

か契

石越しや宗祇法の関子哉　乙州
月ゆゑ雲のあしやすし宗子哉　貞角
夢覚く世を誠とし宗子哉　正秀
関子哉の寒さ孤さ山路哉　鬼貫
淋しさの風ぞ秋なる関子島　越谷
宗子哉ひとりやきのふ過ぬ　懐夢
ひ先へ出つくなる宗子哉　芝長
乗と垣根へ来て宗子哉　大梅
面ぶせるひとり古物さし宗子哉　住年
日は長い先ぶ中や宗子哉　蕉
鶏部をまとめて宗子哉　万乗

をうつくしく細川やうんこ哉　影古
京古郡菊徒けりかんこ哉　逸流
宗子哉ひとりかやはのきりと　水歩
蕉の世界をまとの宗子哉　子格
秋寒さ寒さうへや宗子哉　素樸
宗子哉けのさあやふく雑炊日　稲洲
日は照と芝の中さし宗古哉　探月
寒く降る羽寒やけり宗古哉　貞山
日あたりへ出やうとせし宗古哉　烏谷
秋々寒むき寒やうんこ哉　平波
曲実の中を打ゝ夕哉や宗古哉　雑庵

鶏

蔭刺

刺葦毛

梅室
三河人
一映
保吉
雪雄
永年
子格
義非
羅度
義川
重平

鶏

鶏

雪白
芭表
梅室
双鳥
素樸
大夢
素行
節之
無為
風朗
其角

かなもりや白いの女房ものを
塩塩や月のあるうを立さしん　　葛村
かなもりよりもえもうしし油賣　　曉臺
塩塩や万日の原廣過ぎて　　北枝
かなもりの翁大家や鉄の焼　　一具
ぬりけの本を前すて　枝蛙　　百明
本の枕ものしくうつ蛙　　保吉
をさうの昼日ものを中枝蛙　　英夕
ぬれ扇ものうの原ものあるを蛙　　多代
蛙　　蛙　　蛙　　

虎子ものもあるて蝸牛
のせくさる枝ようなる蝸牛
蝸口や雷ゆるを一つ蝸牛
雨いまる晴ぬうちより蝸の家
子子や涼るるあのいろこまて
子子や蝸ようなるこのうき沈
子子も降るうる面白たまりあ
子子や水ゆる石ゆる苦乃つく
蜜ちるみ馬の原ちるまて
蝸あるや蜜の出くるの耳の底
切れるうるる減る蜜の紅

風朗
松竹
里妻女
繕ふ
永き
三伏人
梅室
浮蕪
ちるる
丈夫
其角

蜜

蜜ちるあるるる

水馬　夕立のあとを捕へて水馬
　　捕へんとうつ逃まどはせる
　　茅の根の血を吸ひ蛭の口
　　赤き蟲入り蛭となりけり
　　何ものくわるものやら蚰蜒
　　這ひまとひ這ひまぎらす蚰蜒
　　這出せとうの赤ら下の襟の
　　切りたるやうなる蟇
　　飛ばるる吉もきも白や蟇
　　わら家を蚊の山とせを地蔵
　　蚊の一つ来こめる宵のうち

蛭　玄蕃
　　校正
　　長崎
　　泥部
　　南波
　　慈光
　　大義
　　出翠
　　書本
　　大義
　　猛能

蜘蛛

蟇

蚊

山里の蚊を屋中
一筆あるこ屋の蚊や蚊の羽
屋の蚊や松の下行うつる海
屋の蚊や伐り尽せども峰
行燈をつくやさきを蚊なれ
蚊のあるとおもへば紙を家が
逃る蚊の又あるく行きけり
つるされぬるの古きつる行蚊が
蚊の来るを笠をつる蚊の来るを
蚊柱を夢のうち捕かうかう
蚊柱の動くく限り軸先なれ

玄来
角為
梅宝
小柳
松什
平波
巻北
美非
玉園
其角
烏谷

敷巻

板橋やめけ先ゝ元のまゝ　湛石
板橋ゝ〻ゝ多わ板き巻の板巻下　玄来
板巻ゝ巻や巻ゝ安の石ゝ　嵐雪
かゝゝゝや懸物ゝゝ者一人　其角
板ゝ特板きゝの角きゝ巻　抱儒
月敷巻ゝ巻の多ゝ板巻ゝ　梅宝
居巻ゝゝ又風多ゝ板巻ゝ　多安
板巻樊池巻や巻の巻巻神　永保
巻やけの巻ゝ巻ゝ巻ゝ板巻ゝ　遠流
川風の巻ゝ巻ゝ巻ゝ板巻ゝ巻　白起
掃先ゝ地の巻ゝ巻や板巻ゝ屑　風朔

敷帖

伐おゝ伝庭本を巻ゝ板巻ゝ板巻ゝ　籠屋
板巻ゝゝゝゝゝ巻ゝゝ巻ゝ巻ゝ　左京
居別深く宮ゝゝ好む板巻ゝ　島津
三ヶ月の入をゝ結ぬ板巻ゝ　大黄
吉伝ゝ姥ゝ戸口の板巻ゝ　舟村
つゝみ感む布ゝの板巻ゝの那　蒼亂
本仏ゝゝ板巻ゝゝゝ庭の奥　卓文
ゝ先ゝのゝれ入けゝ懸のゝち　文業
手枕や月ゝ布目の懸のゝち　知月
初ゝ免ゝ懸西ゝき月板ゝれ　言丸
涼ゝさの外ゝゝ見えて懸の中　永年

以燈を机に入れ数帖有
懈怠にして置くに和尚の
怠にして怠なく数帖
猶立ち子を掃のごとく枕屏
屏の数屏なるとて数せけり
主となる家ともつるに懈の中
以燈を家居載なる数帖有
見えるせねそこに懈の月

演吉
鶴鷲
一肖
一具
梅令
子格
欽哉
梅室

發句題砂子夏之中

冬至庵庚年　輯
八雲東溟　校合

五月

かるる身を雲に責る五月哉　仁兆
表わらに上ふむ里の五月雨　渭川
戸雨のおさへつけるる五月哉　士朔
竹先に数の程をあれる月哉　三津人
五月雨の雲の雲の月哉　外山
柏きる日を雨の五月かな　宋年
目を覚る時や清夏皐月山　十世代

皐月

雨雲の山根へ続く皐月哉　慈光

かとゝぎす鳴くや五尺のあやめ草　志賀

赤ゝ尾の長家くるあやめ哉　蓼宇

鯨ゝ地もあやめふきうの花　鬼貫

屋根ふかとなんく菖蒲あやめ　其角

菖蒲あやめ門ゝ赤ゝ哉　梅宮

あやめ葺目ふのふこの葉ぬしち　乙二

をかしやれ蓮の中よりあやめ　城義

座中を通る田舎やあやめ草　南枝

戦度と蝶ゝ舞やあやめ　盛充

向ひのとゝ会せくあやめ哉　歌哉

菖蒲

菖蒲酒　世をすゝ麻ちりけり板乃除　慈光

ちゝ母の菖蒲酒ゝ赤ゝ哉　新年

菖蒲あやめ哉ゝ　芳風

菖蒲湯　湯の湯ゝ仏城内ゝ　子格

村中ゝ屋の湯ゝ入あやめ哉　碓山

一つゝ温ゝ壺の中のあやめ　白雄

菖蒲刀　君ゝ代のゝ刀ゝ那　言水

ちゝ人ゝ来ゝ佩てゝ刀ゝあやめ哉　汁道

貞徳　見惟

菖蒲打　仙化　一映

印地打　溪石　小柳

年ふるき人の咄や印地打　氣雲　山菊

おりふしの出れば印地乃京孫　蓮青　朱英

蓮青　沒蓮　梅宝

粽　粽作りもてはやす故　数　石橋

みち外一口ふまず　粽五把　氣雲　之助

ふるやこうる粽とうりて産業中　路面

山菅の結び目をしやちまた紀義　加しく

巻葉て結ふうのちまたの女あれ　扇下

扱てよ紅扱ふうんゆるちまきゆ　二晶

ゆるちまき粽ゆるのよおもくけり　濱吉

とく前こつみやうつる粽乃　小柳

立沒ふまふ巻結のふるちまた紀ゆ　山菊

粽とく丈こつけふまち草ゆ右　朱英

ちまたゆふまふうつ廣ゆ　梅宝

今ゆ乃ゆ陣こくりぬちまた紀　石橋

湯帝のふりちまた紀袁家人ゆ乃　之助

拵ふふりやゆ小舟のちまた五把　氣影

世ゆ沒ふ袁ちまたふふ粽　杉海

雨ふりふ金今ゆけり笹ちまた紀　朱英

扱ゆふく乃ふふ袁あふ笹粽　乙二

柏餅　付菖蒲やとかれる柏餅

ちまき　と書菓の生れ柏もち

藥日　所書のけ〳〵紙別て革薄

懸　もあやめ懸と称するあしで

柏ばこまけこうこの懸乃

子稚者の分別ゆる懸の那

あ彩時々見んも彩る懸の那

面白そうまちくのくあり

遠けまて静さんゆる懸乃

男とは書て居るゆる懸高

高とき方とき紙中彩りし

抱琴　風朗

南枝　山外

一映　蕙左

其角　梅室

支考　甸人

蝶巢　士朗

左徒　もせ氏

我竟

涪〻

六坪

仲六

二階のうらへくさく仲く彩りし

蕙の出這入りうくのあるの乃

常世かと古まを高書の乃

草の戸よりしく加る書乃

競馬　競る場とのゆ身のいきみくの那

人の世よりうくしけりうへ馬

うへ人る蕙よりあるかと思ふあり

わらはり人る蕙うへ乃うへる

あ人きうくゆの歩ゆやうへる

ちうへの臭よりちる競る乃

仲降日　降うそとも仲降る日蕙と笠

面をやゆ仲ゝ辟日の人あつめ　其角
仲植や盆のせる菜ゆへ酒　曙坡
仲植て〻ゝ菅ゝ菓ゝうきん　〻〻
千物の者ゝ　せんゝけ植る　西鶴
仲植〻〻植ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ〻ゝ　角あ
仲植〻〻牡丹しけ也ゝ〻の菜　南枝
仲植〻根をゆゝ〻ゝ〻ゝけ　史仁
植〻〻〻〻仲ゝかけ〻ゝ協〻〻　蕉窓
仲植〻〻〻〻雨降る戸口の那　永光
仲植る日をゆ〻〻〻植〻けれ　寿〻
仲植〻〻打あ〻〻〻〻〻〻〻〻　古老

吳〻〻〻仲植ゝ〻植る〻〻〻れ　葛古
今植〻〻仲〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　東溟
虎〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　鬼貫
涙ゝ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　一考
淋しゝ〻〻虎〻〻〻〻〻〻〻〻　去芳
八吾南〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　其角
も〻〻〻〻〻五尺の雲をあけ〻れ　晩壺
四池も〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　一映
石菖蒲　石菖〻〻〻〻〻〻〻〻〻　三津人
藻　花　藻の〻〻〻〻〻〻〻〻〻　護物
道辺乃刈藻〻〻〻〻〻〻〻〻〻　美村

蓮

藻の花よ吸うて藻を舟子かな
藻の花よ白み加へる日暮かな
わすれけく藻の花咲く流れ哉
蓮の實も口あけしまや
花咲く粧蓮の うるはしく
泥塗や花うる草のさそよみ
うきうきやけさ八あちこち蓮哉
蓮や塚の力おさえて
蓮やみのうへまでかくれ
花もまぬ蓮ひとりうるはしく
蓮の中へ新出入の船

冬更　元北
舍用　嵐雪
知足
塚羽
乙由
子代
齋淵
蔡新
一映

沢潟

おもてうら弓矢うるはしく
もとおもて四葉の数みのもけり
沢潟と蓼の赤ぬるけり
沢潟をうれきの潟も沢潟哉

河骨

河骨や花とうるはしく葉の美
河骨や絵とひとしぬ花さうり
河骨の二本くや丙乃中
河骨や一本ひけらゆらく
花且見　強入まぬ月は古さと花見
大池のうちうちかしら見
真菰苅　酌のうや袋とのーまさ苅

素堂
如行
雨吟
嵐蘭
逸淵
素堂
夢村
山馬
僕物
意光
邑姿

驚きかくるの音や苫葺の
きつの荷くに生茂る面舟に
藻苅舟　藻苅舟笹の葉わけゆく
蓮の葉　押分のあけくに蓮のわり葉の
蓮浮葉　浮蓮よ魚やらんそゆりけり
蓮　さそくに蓮うえいけの亮
蓮の花面白このうまかなり
晩の姿をさうせやうの花
包しかくれの仲に蓮のれ
蓮の花さ紅揺るぬ蓮の
新池に四五枚ちらの紅葉哉

也有　籠屋　待乳　文遊　芝表　鬼貫　支考　乙州　聖波　面南　皎堂

蓮の葉の上にうや蜜の蓮
吼なる新る蓮の枝の
蓮一茎にやうれ花きもの数
花天の明りにけるこれ
ちくさ紅ものかき蓮の郎
今ちを吟ぶ風れ一蓮の上
切ちくに蓮やうの紅葉の色
蓮の秀や蓮一面におむ
蓮の葉ちちや魚の浮沈
吟ちちくれくや蓮の花
苦花　苦生ぬや　花吟ぶ蓮哉

抱儀　琴美　乙二　助宝　芳孔　丁知　子格　楠宝　東浜　百明　士朗

乙二
桜草
角上安
吟雪
拍丸
真角
独候
百竹
東涙
嵐雪
素堂

夏菜

百合

支考
子代
成美
角上
采木
笑風
菜摘
警石
美机
素成
子代

紅蓮花

たゝおりぬ麦のうゝ　山店
紅つゝ花や　春子　地の花のうち　丈左
手を濡ふやうに紅の花　原芳
舟曳の麦打ふみ乃花　子那
麦湯や　雨上　西施ノ合歓の花　玉代
合歓の赤紙ぬるむ浅ゆ　仙花
時ぬ春さまや月出て合歓の葉　杉什
時易き衣のうゝ春ぬ花　風石
夕日うゝ見ぬ合歓の花　伯達
火を焚て戻りゝ門やぬ合歓の花　梅令
雪のあけくやぬ一さ合歓　素行

合歓花

日ぬ方ぬ合歓ぬ咲ぬ方ぬ
かさねぬ花や紅日の合歓花
けさの如きゝかやうゝの花

虎陽花

虎陽花や義を立ての別れ哉　枝玉
虎陽花や白ぬ方ぬ方ぬ
虎陽花ゝ方ぬ方ぬ
虎陽花や合羽干ぬ早酒ぬ　一角
虎陽花の寒ゝいゝ浅黄糸　玉代
虎陽花や丹ぬ面ぬ元ぬ　帝因
虎陽花や仕舞の頃屋ノ酒　山外
虎陽花ゝ方ぬ旭ノ日ぬ　塞馬
由楽
蕎麦
乙二
乙雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花柘榴　赤くてうきの白の花やとも柘榴

花橘　薄紅の花やさん橘も葉の白ひ

白くてうの葉く橘の新くもそ

たちまちの花やまの橘ことに尽きを

橘の一かひあれ山ひの那

橘や自都なれハ浮世えく

十薬也　ちくてうの花のものとも白し

躑躅　桂子の花新緑をうむらん

桂子よりんとして平地や川岸

桂子のたちの好き節の那

桂子のその加那

桂子は那やの白うれ　岩白

也雲なれ世のものも那桂子　色衣

桂子の節にはさしタヒう那　朱義

桂子や初ちくの芽いきれ　羅唐

桂子や袖濡ひ折橋ろう　双鳥

常夏　常夏の也さ新けり拾ろ除　一映

常夏や晴天ちくてうり川　曽成

石斛　石斛やされもうちく屋の雑　成義

懸鈴草　自代と懸鈴草のそう那　業和

那蕚草　加てうつく塚の色　莹宗

うたてみの拾つくさ山や庵の名　里喜女

蓮の葉　若けれども蓮の葉きくなれば
芭蕉　芭蕉の葉　芭蕉の屋根をつみ危
芦　草　芦くさのあるかぎり浅茅が
一ッ葉　ひとつの葉のもとにあるけり森
霞盃子　霞かりよいちこ盃けり草枕
いちこ　いちこ草の上
谷川や　谷川やいちこ
葉　葉の実　葉の実かく補る姫の那
蘇　蘇の実　蘇の実を流潺せんきのあと
蘇の実　蘇の実をかりて高とまり
蘇枕子　蘇枕子

芭蕉
三峡
盛衰
左
史邦
牡若
柳居
一風
芭蕉
一映
鬼貫

青梅　青梅や　梅の花のちるまきれ
梅の実　梅の実　梅の下にれ
梅の実　梅の実　梅の実にけり
梅の　梅の　梅の　梅の　梅の　梅の
実　実　実　実　実　実　実　実
梅　梅　梅　梅　梅　梅　梅　梅
梅　梅　梅　梅　梅　梅　梅　梅
若狭　若狭　若狭　若狭　若狭　若狭

岩泉
杜國
丁知
素人
梅室
芭蕉
純可
子瑞
文子
宗因
仙花

五月中の中ごろの俳諧
五月ごろ清しき夜半七ツ鈴　和泉
五月中旬ごろ鮎乃江　東素
五月中朝ごろ長き橋乃雫　緒鶏
夢ごろ過ごしの五月の雨のけり　由誓
五月の空みしらけ屋乃雫　心河
五月中ごろ盛り乃雫　左示
若竹ごろかけうせ風の菜内の那　猪山　文鯉
雲ごろ夏ごろの雨ごろ今年仲　二三
郭公ごろ夏ごろ今年仲　物宝
牡苗の中ごろ郭公今年仲　逸月
牡中ごろ一盛ごろ今年仲　松什
もれ会ごろ夏ごろ清ぬ今年仲　蒙山
親仲ごろ一盛ごろ今年仲　蒙和
椎樫の中ごろ生ぬく今年仲　紀芳
石垣ごろ夏ごろ仁ごろ今年仲　茅岳
壁ごろ夏ごろ蛙ごろの中ごろ今年仲　素樸
風ごろ夏ごろ風ごろ今年仲　子格
竹皮散　子代
瓜花　一映
結搦ごろ夏ごろ夏ごろ乃波　護物
夏ごろ夏ごろ夏ごろの夏ごろ　素柳
二つ巴ごろ夏ごろ仁ごろ乃波　寥淵
夢先の夏ごろ夏ごろ夏ごろの夏ごろ

もろこしのあらとよりはつかに成ぬ　英山
天瓜花　かるとかとうせきの数　三峽
早松茸　かるとうとうとう

京のやう月の田植の時分
ゆゑ〻〻島人会せず田植をれ
とり立てゝ也婦なる田植が
見吹たゝまる里社田植をれ
植る田を見めぐる事や河内
つゝゝゝ六名撰む田植を那
沙のさゝ田を男女植ける
山みゝ後ひ会せず田植をれ
家ゆゝ居れかゝまる田植乗
手まゝゝゝ別を立て植る桂田が
植河ゝ田ゝゝのかき戦きをれ

横物

行七
乙由
有人
白波
黄山
桂河
西月
今是
波同
堅菜
史子

界隈のゆゝ田植の手踏をれ
植河ゝ田中の家や行のとゞま
植河ゝ野や山田のあゝゝ為
乙河の底の恵あり田植為古
を元ゝゝ凡のゝ植る田植をれ
手作の高く雲ゝ分れ田植乗
植つめゝ田ゝひゝけ里丘の家
阿弥陀ゝ陣ゝみゝゝ田植笠
植る田やあゝゝゝゝ田ゝゝ
届狭田植ゝゝ植やまれ
家屋の数ぬけて植る田植をれ

芹舎
茶軒
乙良
蕭毋
瓦橋
朶峰
葉和
梅宝
沙弥
東池
丁志

植てなる山田を廣のあるける
待よ舟のこぎこしる田植うた
田植歌　川流のたしかに奥の田植うた
山の井や人目相ふる田植うた
玉響や世をなつかしむ田植唄
野のもとなかよ覚る田植うた
早乙女　早乙女よ暫て移る菜飯うた
明るや早乙女乙女独る其踊
早乙女や苦なきなのり豆
早乙女の馬叱てるわしひけり
早乙女の袖ふらくるふれけり

士朗
蔦之
玉蘇
蓼太
正秀
由誓
巻空
百里
右孤
和成
南枝

笠引組を冊る植女
早乙女よ裾ふるまりめへ
田植笠嫁よ相子とまる勿けり
仰ぐまとかく植ることくて流苗
わてこ場て拾ひあけて流苗
物洗や夕雲の寄る苗の中
まつ塚や服装けまて乾て
植植もまくやうかり塚の寄
せて移ものよ武蔵の名紙ふる
ゆるりてよ年拾て何と塚の群
塚なくや寄るまつ寄ふこ

二丘
蕉仇
大江丸
籬屋
茶和
窓杉
五明
玉蘇
鈴意
宗因
巻空

流苗
物洗
塚

唖蟬のなくなる樹もあるなり　杉風
月代に夢見る蝉の詩　正秀
遠坂や蝉なく方に日の入る　紹月
風のせぬ蝉のなくなり　永狐
日ぐらしの蝉なつかしや　抱像
鄙寂る蝉の声や蝉の声　古瓶
蝉なくや志賀の山乃雨　乗本
本寺の庭に一声蝉の声　景文
里ぐらしなくや河原の蝉の声　杜有
休憩や木一つあれば蝉の声　羽之
蝉なくや瀬の音雨上る　麻呂

蝉なくや夕ぐれ川つたえ　一仙
せみ啼や夢ひらひらのわすれ貝　鶴年
日ぐらしせみなつかしの山　仲外
なく井へ落て啼よけり蝉の蝉　風也
蝉の声鳴うるまれ一声なれ　角立
せみ鳴きまるまるとなる日ぐらし　駝岳
あるかしの木に啼こなる蝉の声　子格
啼せみや石の音乗る蝉の声　一井
蝉のうゝ働くやうなれも　句空
蝉時雨　鳥のうゝ多ゝ寺うなれ　乗本
寺の井に打る山風や蝉時雨　丁空

空蝉

夏蝶　反対語あるべきやうなれども
蠅　うるさい人の旅まくらなどに
かかるつく仮寝蠅下ちてなる
蠅虎　蠅といふ昭和十九年度春
浦風や　ひとりゐる蠅のたれ
蠅の居　おもひ出す春風に
待ちうれ　ハまくなり　蠅叩
飛蚊　蠅とうち　地とうれけり
雨や　蠅　地の近ちる
灯取虫　雪のさうひ　灯取虫
夕立　ちまち　灯取虫

ちうちとうて　灯取虫
呪ひて　尽く　灯取虫
更ちて　事　灯取虫
近きれい　ちうて　灯取虫
夏月　何　灯取虫
草本　ひまて　灯取虫
近きて　地　近き　灯取虫
けりと　庭の　灯取虫

反魂
蛍
近き　世俗　切徒や　反り虫
屋人　首　赤き　蛍
ちうて　や　山　蛍　時の間

蘭和
ちて
風雲
子生
岱
春行
抱琴
青右
小園
丈
西

通甫
禾月
手格
寸風
桜宝
禾本
素屋
沙弥
年丈
ちて
玄来

義而て郭公ふるさと音かな
きりぎすのなかぬ谷もなし
草ゝ花さくさやみの吉
牛飼童ふるさとの草の花
二つされ一つは扇かな
秋陰ふるさと飛ぶ蛍
手のひらへ蛍ぬく
四方を見ぬく草の蛍
されいなる山ゝ
草の葉ゝ風を待て飛蛍 高上
拾穂ゝ関扇ふれ蛍集 仙重

嵐雪
文蛍
西鶴
言水
角女
繡鶴
永保
北枝
川丈
友渓
華宜

拾先へ赤くふなる蛍
馬引くわたしの川や飛ぶる
秋の夜ゝ蛍ぬ
むかしゝ世も日ゝふれ飛蛍
孫ゝまを引ぬく蛍
蛍ふれ風ゝ
風ゝ加ゝ川の
新ゝ加ゝ
夏むまて傘ゝ
雨ゝ
草枕毛ゝ

探敵
旭湖
尼撫
紫義
素明
杏俊
仙里
花外
流芝
美吹
重布

本ことさら菓の陸てあるけり
菓子やつんこんこん雪の降て
どこからか白てちらしの菓子
こんかりと斗の新や飛おれ
二つ三つ紙かけたれし一菓子
風に流れちらちら雪と一菓子
ほいとさの屑ぬやうに飛おれ
故老史社煙草こそ形おれ
夫ずこと植口形おれ
草莉の袖より出るほくろ形
悲なりてつとらぬおれ

雲里
礦山
板室
鼎左
素柳
紙雲
万像
所六
庭山
下枝
浮菓

秋子菓

飛ひて去りとらんかれ
往反り行燈まれる菓子形
ちちりやの浮菓子なく姫
蛍の背こそこそ吟の浮菓子
炉ちかやの浮菓子波のまゆ形
日のやの浮菓子こそ岩ひ形
動いてさぶて居る浮菓形
接つつく浮菓子ひまけり
てりの草こかこそ浮菓子形
吟の菓を四人吟ほくこそし形
等人おく浮菓こそ雨の形

左宜華

南枝
禾木
真角
翁山
茶天
蓋亭
伯遠
之浮人
浮所
一紙
鳥津

波さらぬちきりあり千時於の巣
永弱なくて人のいへ作屋酒
少屋れい叩くてきかき物れ
繰てこの行ちあ四のあ物この敷
敷紙の消ぬうちくあ物年
ちちのうち雨ちきかくあ物年
千ちあ物時ゆしこ一ち敷十ち敷
ちうかちうち色ちかあ物れ
雨の寺をあちうち言のあ物ち
かくあ物敷ちあ紙ちと家ちけり
門ち指ゆけれ本ぬあ物れ

菅良
ちあ式
敷あ
角ちあ
宣物
嫁業
永保
松軒
可吟
住年
色閑

なきちりひく屋ちあ屋ゆうあ物ゆ
義月敷ちゆうちうちあ物れ
屋先や吟ちあ敷ちあ物
破塩を越てちくあ物の那
時ちあり卒吟ち敷を峠あ物
里の子敷先ゆしくゆちかくあ物
有ゆの清川寺ちあ物の那
白敷かちうちゆちあ物れ
白あの流れちはちうちあ物
村口の敷法屋ち敷吟あ物
去笠ちち日ちかくあ物れ

宋義
百姓
烏津
接宝
子敷
素樸
籠屋
乙良
吕川
熊村
南牧

枝川の有く門田の夕移れ　義北
水石の行く程遠く中時の移　水石
村白鳥八出く春の移れ　士朋
見まもる移る春の移り　素行
夕れ時を見けつく流出ば　一象
水れ時く神移る流れ　為白
羽抜鳥　羽の行方時雨ふりこまぎ　真南
まもる移る春の移り　健年
連一つ居ぬ羽の行方　玄子
練雲雀　練雲雀日や行田林一門うまし　吉良
時行方時つい雨ひとり　陽和

移川　御堂白小枝の移川の船　蓮静
枝の移く何時家なれ移川年　京
鳩舟　移ふる山やそ雲き移舟れ　雨翠
曲江の舟の見え移舟の船　玄民
先舟の枝まかまも移舟れ　梅鮒
宵の雨わ一の雨移舟年　淳児
かる春まる史移舟年る　素樸
時の時移の移舟れ　林曹
移道　移歩しやまき人の見まる人　子崖
移歩しの服くを世人時舟の船　信徳
十二月の軒の中ナ移道ナ　双鳥
本等

つゝのゝや 移ゝ
移ゝ山や 有ゝ
移ゝつれゝ 一里
舟さゝ
移ゝ
蓑笠ゝ 蓑移ゝ
凡物の 折ゝ
矣角ゝ 縄の
移ゝ
鉢のみや 佛め 移の
ゝ 移の

底ゝ 蓑移の
移ゝ 移ゝ 血脈や 一寸
目通りゝ 近の 桜や 巣せゝ
撫ゝ 命や 巣の 鉢
巣折や 島尺
石川や 巣折ゝ
田ゝ 鉢
手に 蓑の 鉢や 鉢二ツ
翡翠
川せゝ 折ゝ 磯別松
立ゝ 翡翠ゝ 乗ゝ
川せゝ 一枝 巣ゝ 蓮ゝ

内裏
塚巣
其角
梅室
鬼貫
李由
玄来
籬屋
双烏
乙良
里喜女

卓丈
其山
其角
比筋
土芳
桃俳
夕山
流ゝ
完来
百明
業言

鴨子　鴨の子は生れ立ちて月数を経て
友鹿　鹿の釈籙ふく母を慕けり
鹿子　灌仏の日不生合鹿子の
矢のやう親の乳をの毛鹿子菜
破垣やわさと鹿子は通し通
石よ貝のせく者めく鹿子の
畑ぬとにくけの子くめ菜子の
眼くさりの子歌ふ鹿子の郎　伊賀
婚の中言葉に鹿子菜
親に似く母つ鹿子が
馬の子と白い喫合鹿子の郎

芳之
一茶
寸長
立志
岩良
寸長
清所
喜廉
乙二
梅宝
亭ゥ

出所ふく岩田の鹿子の郎　蔡静
鹿ふく経ぬ子ふる菜子菜　洗斎
草の穂のゆれくも言ふ鹿子が　江戸　菜年
鹿子ふくるる鹿子が　蝶二
あ鹿ぬ言ふ飛ぶ菜子の　鳥石
ちりぬ言ふ言ふ菜子菜　杜蘭
鹿ふ言ふ言ふ言ふ鹿　杜有
物曜ぬ言ふ鹿ふ言ふ鹿　浪芝
一ふ言ふ言ふ言ふ言ふ鹿　鶴翁
照射　照射又は鹿の上ぬ言ふ
打角と消ふ言ふ言ふ　士朗

火串　京吉の所生わらる火串哉　飛洞
杉の葉のちらちらと火串哉　蕉風
晩を立まゝ入せ串この邪　深更
明殘て生串や風の一わら　角よ
屋中を掃這よる生串哉　菩提
干鮑　干鮑や夕くれつゝ磯乃家　始度
有無日　雨せの日まゝ居ぬ鳥の邪　小聖人
入梅　夕立のかゝらぬうちに入ぬ　丈芽
双六のおもひ出ぬ雨の哉　胡及
雨のあゝ白拍子入梅の明ぬ　素芽
入梅雨もあるもあるけり　清美

入梅や京の家の小家の乳　寸長
梅雨晴　梅雨晴や鎧つゝむ門ぶし　楠山
梨子棚よ蔕の屋つゝや梅雨晴　蘿庵
五月空　雨ふまゝ一枝を五月空　蕪右
五月曇　やゝ本を出さく五月くもり哉　味淦
五月雲　芋山や郭ぶくもる五月雲　素柳
五月雪　舞坂や岡の五月雪ぬめる馬　梅岡
網打やとれぬうちの五月やゝ　三峰人
先生のゝみ出ぬ五月雪　其角
雪芝
山居

五月雨

五月雨より かくれぬ物や 閨の梯
五月雨や 筆とりて小人 形
中略 小姓とりぬ 五月雨
五月雨や 拙斗の面を 鏡の底
さつき雨 降りのとおもへけり
五月雨より 沢むや 紀伊の八藤司
五月雨の うしろかなり 五月雨
五月雨の わけて降るや 馬の首
五月雨や 妻とかまくる 家の蔓
五月雨の 止て西 松かる島の 礼
小原女を 待意して 五月雨

素文
蕉
健年
清所
意ゝ
拙宝
元兆
四明
紫美
拙通
万頼

五月雨 降りしく 雨に 五月雨
五月雨や 家をとりかくし 重
五月雨や 杉の古葉を 交て降
五月雨や 二ヶ月 雨 蓮葉硫
五月雨や 商屋の 店より 夕 徐光
家内より 降ちらかす 五月雨

五月雨や 鶏の 雨
二三ヶ 数出ぬ 雨や 五月雨
五月雨 ぬれ口 ぬる 相 雨
捷 ぬれ八 流石 あつし 五月雨
五月雨や 垣根 ぬる 小 拙 燈

五月雨や苔むしく〳〵板の橋　乙二

五月雨や傳の苔ふる蘭の寺　壺天

五月雨や伏見蔦の中一宵　甲斐

五月雨や桂伊勢多きやみ雨　可精

五月雨や富士吉原板の川　蒼雨

降しきる雨ぬけ出る五月雨　盛年

祖父と孫茶湯なり五月雨　也雄

湯〳〵茶湯筋白し五月雨　林曹

雨の夕の西の五月五月雨　抱儀

板葺屋の柿を伝ふや五月雨　盛元

重箱の下解き初む五月哉　子格

五月雨や苔むし低き磯の家　蒼虱

五月雨や下ろわらぬ板と屋　風朗

孫ら〳〵や十日ぶりの五月雨　卓池

門口の山ゆ来ぬ五月晴　双烏

拭ふ舟の戸柳や五月晴　角女

鶏ゆ〳〵や屋ら門の五月晴　子格

雑帳を吉野の財若ゆ名残哉　其角

雑帳や水の五文字の石清　宗因

雑帳や毛出ぬ人ゆ霞ゆ玉　蓼村

雑帳ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵ゆ〳〵　紫美

雑帳を抱ゆ牡丹のぬけ人　乙二

五月晴

雑帳

短歌や語の結目ゝ[illegible]
短歌といふ[illegible]雅の[illegible]
短歌や玉江の芦の一[illegible]し
短歌やそれ人[illegible]
短歌や築地の古[illegible]
短歌やみくさ[illegible]
短歌[illegible]

同 保青

拾宝

北枝

素伯

卯七

月居

凡董

白雄

多扇

岱宝

易歌

易歌[illegible]
易歌[illegible]
易歌[illegible]
易歌[illegible]

拾宝

其角

盛美

永年

朱美

楽堂

寒扇

[illegible]

友歌

友の歌や[illegible]
友の歌を[illegible]
友の歌を[illegible]
友の歌を[illegible]
友の歌を[illegible]
友の歌を[illegible]
友の歌や[illegible]

友月

友の月[illegible]
[illegible]
友の歌や[illegible]

[illegible]

[illegible]

宗因

たゝれて海さまあけり夜の月　桃隣
蝉下や笛吹さめてなつの月　霧月
茅あれハ鈴あり里夜の月　支考
市中ハものゝ匂ひや夜の月　伊北
青葉ゟ兵舟やなつの月　等村
舟上ゟ雲筋きえて夜の月　蒙更
口上ゟ舟ゟ夜の月　大江丸
夜の月ゆれ〳〵しるゝ乳　士朗
舟人ゟ見ゟたんなつ舟月　完来
暦へ町へまゝゟなつの月　松什
人家や四方て煙ゟ夜の月　風朗

帷子

俤ゟ出く人ゟ寺ゟ夜の月　卓池
狗まゝゟ松さゝれなつ夜の月　素人
帷子ゟ那ゟ夜ゟ鈴五百　支考
帷子ゟ故ゟ面ゟ夜ゟ村せけり　皎雪
帷子や人の立居ゟ芦の風　奇淵
ゟのゟゟ帷子ゟ四十めく　生長
帷子や山ゟ雲ゟ屋ゟ敏　念〻
ぬいゟまゟ帷子ゟかけゟ鶴ゟ乳　一炎
帷子や懸ゟ雲ゟ夜ゟ生ゟ　雲里
帷子ゟ松ゟ目ゟ山ゟ児　岩城　一ゟ
帷子ゟ松ゟ碁ゟ舟ゟ届ゟけり　岱立

帷子に背中の暑き夕日哉　洗元
帷子や一切越せぬゆる毛帯　東溟
みすぼらや沼の底なる辻の花　平心
切越しにちらでとまれる辻の花　菩薫
居行者ようるさかるや辻の花　堤二
芦羽織　まれかるく居らぬ芦羽織　里要女
晒布　穴蜂の布をくへけり晒川　護物
布さらさ布色きの布ち貸蓑　三峡

冬至庵庚年輯
八雲東溟校合

六月

六月や峯に雲置くあらし山　たかし
六月や舟こぎ出くるる酒乃樽　秀甫
六月や芦乃沼下なく鶴　万和
六月や夕紙屋ひとり風情　寒松
六月の死数沼をなりけり　三清人
六月や待ち多き屋乃そら　芦机
つけそこ灯ともし月ひ高屋の孔　峯岩

六月や極楽寺の
[illegible]
五月雨
[illegible]

水無月

五月雨や鯨の海を吹くあらし
五月雨や色紙おしたる二王堂
五月雨の一軒屋根の柳かな
五月雨や[illegible]の雨
[illegible]

源英
冥途
秀句
[illegible]

水室

五月雨の奥水室の[illegible]
[illegible]千年あれ水室山
六月や密柑及せり水室寺
[illegible]

真宝
言水
水狐
丁巳
梅室

水鶏

水鶏と日乃出るまで水室ぞ
[illegible]

永秀
升六
波島
其角
治徳
貞柱
波足
[illegible]
[illegible]
晩志

祇園舎

鶏に入る人の[illegible]
月鶏や松原西へ入さやま
冠[illegible]
[illegible]月や長刀鶏の雛[illegible]
月鶏や兎の[illegible]
鶏ひろぬ[illegible]人のあり[illegible]
祇園舎や[illegible]
月鶏や人[illegible]
年寄とおもふお[illegible]水室寺
[illegible]
[illegible]
[illegible]

杉風や折々おこす祇園守　芭蕉
素堂ゟ送り越へ来れる絵乃見
十六夜完爽一ツ　赤完爽
富士詣　志ゝ堂より墨書ゟ京ゟ二詣
角帽子雪ゟ調む　不二詣
時雨ゟ春ゟ　ふ二詣
巳ゟ分ゟ　ふ二詣
下戸庵ゟ　不二詣
不猶の穂を拾ゝ　ふ二詣
素堂ゟ　ふ二詣
土用ゟ　ふ二詣
おかつの事　土用の入ゟ

英父丸
大江丸
蓼太
其角
素堂
沾湖
田誓
小園
左孤
許六
杉風

土用ゟ
ゟ　ゟ　ゟ　

雲千代住行の家うちの縁
もり千代世よあるく人のあつらし
虫千代山行裾うつくし風
虫千行先甲よ掛るを作れ
もり千代仲の蔵筆う飛て雪
虫千代かうれうきて奥ゆし
夜の月嫁きに館のもやしれ
夜の日よ寄うきて江の柳
夜行日をうつる湖四の五行色
夜の月雲のうへのあつ是
暑きうを海よのうち家上川

子孫
百姓
南枝
苔雨
古祇
柳居
風雪
武陵
鬼貫
車角
其戎

今そうて雲千臭の暑さの郎
蛇を鷹うきくく暑きかりの風
照行て光うも暑一海のうへ
りんとけの暑きと石の塵さく
暑くうの一海の暑うれ
二日月よ翌日行暑も赤れけり
うつ雲行著行暑きの風
相の葉よ埃月のたまる暑き葉
柱み雲うもうれぬ暑きの郎
涼暑く取乱一うる暑き葉
暑よ凡ゆる暑も草行匂ひの風

許六
宗因
風雪
鬼貫
通南
一具
梢山
孤屋
古祇
蕣母
江戸
里松

蘇の墓を引さくんと暑れ　乙二
暑きやいつこを見の却さま　尚白
口上とてとの暑ろ舞う那　涯山
雨けしきしくまなり暑れ　盛充
さくき水とて涼ふ庭の暑の秋　朱峰
暑うまけなく毎日聖さの那　蓬陽
蓮の中暑さとて暑の園　梅舟
暑きや一めんきく池の泡　文昇
塩壺の白と退く暑され　春文
村村の正月流れ暑さ秋　松海
暑り和油人木のうけ秋し　夷則

なきまれのさ白暑しの暑の那　聖菓
一歩り村まさのて出暑し　仲賀
暑きやさ立ぎうけまうしの木　梅宝
古閑扇さて出くあ暑され　杜蘭
ひらくくと沈ふく暑き秋　丁史
石原さくさ光れ暑さの那　杉風
扇ふるまを繁なくき暑れ　園女
大きて宮を揮む暑さ秋　義雄
鶏の却れなきさ暑の那　籠庵
暑ぎ暑れ扇て鶏の中　庚年
暑きやれ墓くうる暑て　士朗

砌猶下如沈多き暑き柴
暑くるる汐本煙らん氣ゐんよ　完丈
暑きや茅よ巻く居る嵐を　月居
日ごろよりよ近白山際の郭　卓池
日蓮や牛蛙ら鳴く藪の色　三津人
日蓮や雑木紙を町の中　月庵
日蓮や何本雑を尾花　鶴彩
笑天　笑てや畳のうへを隣のきふ　角よめ
夕立　夕立ぬまを和尚よりて話るん　東海
夕立ぬまるから蔦を社宮　鬼貫
夕立て一人ぬるる女うれ　志来
　　莫角

夕立や繼ぬ[illegible]る　仙化
夕立て船ぬく月や松の上　丈学
夕立や懐ふ[illegible]ぬる　風雪
白雨や川近ぬる馬　正秀
夕立よ雨ふる社奥舟　之道
白雨ぬ絵よ出雲の姿の郭　桃隣
夕立の雨ぬ[illegible]中舟の紙　迅月
夕立や外学ぬる竈ら下　探象
夕立や[illegible]松花　右孤
夕立や[illegible]ぬ　迅流
白雨や美物尋ぬ角力部屋

夕立や世に出ぬ人の竹の子　手塚
白白と夕立あとや雲の峯　丈翠
夕立のけぶりなびくや雲の色　心阿
夕立よ羽根屋敷とうく島の郡　素柳
夕立の月に浮ぶ雲の郡　柳居
夕立のさらけ物書つやまの人　昌房
白白と夕立あとのやまの風　利牛
夕立や雲巣をつむむら雀　素村
夕立や数て生もを焚殺の家　士朗
夕立の屋敷宿をいそがしき　呈表
夕立や一人もぬれぬ人もなし　百明

夕立や世に出ぬ人の竹の子　成義
夕立よ遠ゝ鶴や一四ツ　梅宝
夕立のさらけ物書つやまの人　抱像
夕立や古素湯を上る旅の間　素静
夕立や早まゝくも元ゝ　如陽
夕立よあゝ笑ひのりけり色　小圃
夏雨　ゝぬ雲ゝ降けりの雨　一映
雨　ゝ中雲や西月ふれる竹の雨　一雄
雨乞　百乞や感應遠く一滴雨　沙路
雨乞ゝ先ゝけ雨砂雲傘　丈学
百乞や西に新し川の瓶　乙舟

白雲のうゑる國まの泊れ　菅付
淑や暑さも知むむ雲の岸　生徒
夕ゝれや花ひらく雲の峰　玄来
雲の峰揺の汁雲たくむけり　聖五
聖社よ敷折々雲の岸　北枝
永人の裸ゆ笠や雲の岸　雪吟
入かる日の出ゝ雲の峰　也外
ゝうゝゝ雲の峰　探菓
雲の峰風の出ゝ蔭ゝ蔭けり　蔭ゝ
山の見るものゝ雲の岸　等義
ゝうゝかゝ月都よりぬ雲の峰　梅宝

川上の降ゝ雲の岸　心阿
泡ゝく鱗の山むゝ雲の峰　玉流
きゝの雲ゝ雲の岸　抱條
語られぬ湯殿のゝ雲の岸　雪篠
月の雲ゝ雲の岸　仁里
風ゝ一村ぬ雲ゝ一雲の岸　擔月
筍ゝ雲ゝ雲の岸　千粕
磯の雲ゝ雲の岸　杜有
神の木の義ゝ雲の峰　仲架
雲の雲ゝ人ゝ雲の峰　尾張　芝石
ゝの舟も洗ひゝ雲ゝ雲の峰　枝玉

風藁

卓池　蓋光　蓋机　玉園　一肖　鼎左　乙二　菜静　朱濱　玄子

宵武　為白　杜風　大江孔　仁藁　杜波　遠流　李修　古猪　貞年　色図

繪合て十二の巻に扇の歌
扇打ふて和歌を仕給ふ孔
慰さ扇ふ扇ふふふふ
中きふ時々純なる扇の孔
和歌の露よりもふ扇ふ
きふふ中扇の付ふ床柱
程ふ中扇ふ中ふ長方歌
一人て扇のふ長中舟上
ふよふふふれかふふふ扇孔
ふふも先ふ打易ふかふ扇ふ
箔ふふ中川風ふふく掛扇

扇より出る風さまざまの行の部

人のさまざまに扇りし扇柴　英白

牡の姿ゆゑ美しき扇の風　浪京

出女よ扇さしたくまうけせ　山外

人のるよ扇持せる扇けり　梅宝

扇みな画てなる和漢四川　寸長

歯白おきて扇歩びの部　氷狐

吹つける時よあるる扇の部　子格

約束よそ扇りし扇の風　井格

それかあるよ団扇の白の芽　葉静

あふぐいろくるる和歌の団　其角

宗因

団扇

日ぬのけを押て時る団扇が　柔更

麦秋を出ぬそあそれ団うち　涼苔

いそかしき雑みのうちそれ　許六

歩ふそ結搦場ちもちかな　松海

新うぬのをあして団うち　徒然

うちそ持人ちちの和ら歌　来英

冥ぬのをつくんる赤の風　尚古

いつぬそ歌何ぬとあるうちそ　桃下

物の風の茶吹の人を団扇が　丁史

柄をあくさ向て和く赤の風　素行

物ぬ川をんて歩る赤の歌　葉静

湯すゑ人の書扇の絵ゝ風
古里や書まとゝぬ夕ゝあり　九起
子孫繁昌の為に格別　柳意
掃除きゝ可き掃きに成れ　懐二
おのゝ〳〵こゝかゝる書を　壮賢
涼き扇こゝ上に成ぬ　一兆
掃出て生出申上ぬく書の　我竟
扇の四隅まゝ四角か那　梅宝
乗かゝる幸把かゝ汗の玉　蓉子
玉箒の風ゝあゝし汗拭ひ　道表
易事の和中きゝ和汗拭　嵐雪

汗
汗拭

扇打いゝて持ゝる汗ぬぐひ　子那
掛香　かけ香や唾吐姫人ゝ好　蕪村
ゝけ香や出ゝ時めく紅表　乙二
出ゝけ出ゝ持へきれの日傘ゝ　蹇馬
日傘　盟日に用ゆて彩ゝる日傘ゝ　波同
さゝゝゝゝゝゝゝゝ出ゝる日傘ゝ　大阿
持のゝゝ一尺面ゝ日傘ゝ　文昇
窓形て屋敷に書や華　ゝ武
さゝ涼や出ゝゝゝゝゝゝ　其角
たゝ出ゝゝ出ゝゝゝゝゝ　百明
箱ゝに乳ゝく歩ゝ夢　梅面

世話者指南之字ぬ草　情二
仲ゝ人　ゝ紙ゝんまゝゝ数也仲ゝ人　仲ゝ
仲ゝ人情ゝ相ゝ仕ゝ　為白
出者ゝ和ゝ引ゝ世ゝ仲ゝ人　蕙者
立掉の出ゝゝ仲ゝ人　可数里
仲ゝ人月ゝ抜ゝ　朱翠
為ゝ世ゝ百ゝ仲ゝ人　物宝
抱箱　抱箱ゝ指ゝ月箱ゝ　慈光
仲ゝ人　人ゝ懸ゝ出ゝ仲ゝ人　丈ゝ
箱枕　箱ゝ義ゝ出ゝ箱ゝ　ゝ表
箱ゝ付ゝ先ゝ意ゝ箱ゝ　五楽

涼　臺　仲ゝ臺屋指南ゝ出ゝ　清白
人強ゝゝゝ紙ゝ涼臺　一遊
涼臺ゝ出ゝ仲ゝ　真松尼
角ゝ上ゝ角ゝ上ゝ涼臺　一帰
座敷納涼　仲ゝ出ゝ仲ゝ涼臺ゝ　他力
出ゝ出ゝ出ゝ仲ゝ　清水
破ゝ出ゝ紙ゝ　出ゝ紙
涼　ゝ表ゝ涼ゝ　出ゝ
出ゝ表ゝ涼ゝ　鬼熨
出ゝ人ゝ涼問答ゝ　風呂
大ゝ遊ゝ出ゝ遊ゝ表ゝ　貞室
涼ゝ涼ゝ出ゝ表ゝ　表ゝ

小屋ばら山里ばらし板の上　丈夫
板ひさし人まちがほの流れ　堅坡
戸をたたく流しまの門　伸女
流しまや先祖前のを寄るく　永猛
夏草にてもむ秋の初うれ　把保
流るかきりのあるまや　白高
生居きる夏にかりしか流　逸月
流しにはひるの月を望りの夏　晩壷
流しまや鐘を撞く鐘の寺　曼村
夏草にて流しく土にて　古朗
きりしまや朱の上の老の夏　宋義

流しにて人にて小自由を寄れ　茶鈴
撞るかりあるさ人部を流しれ　堅墓
嫁ひにくりにあるけりの門をみ　芹之
降ちにて竹のさ流しまや牡　右高
流しきの庭くの新蕎麦紬工　流ゝ
流風の寄るさ寄をさ弩弦　昭山
流人にりりよりしの原の那江戸　川虹
庭の寄る竹のうみて流し蛩　井猪
牡さ人の蛩しまを流し紅川　東丈
流しさや寄るに物を流ひら　蒼机
仲よ夏あるく流しまや雨　伯壷

畑を耕す人の住居は
いとよく生るものなれ
雲立や海に起るまさ風
涼しさや月あるかたに波寄
さつきまつ花橘の香をみ
涼しさや涼を家にすまひけり
けさ秋や海を渡りて涼しく
海に出て舟を作るあまもあり
川さきまあるのぼりのぼりみれ
泊人も交て居る門さみ
あらしの涼むとて言の火

梅令
松軒
清府
得蓮
一宵
雅孝
西月
雅方
原涼
麗旦
蓬陽
宗人

雨やとりしらぬ宿に涼る船
格の中とる木もまくよ涼哉
苔ぬぎて空人けむ涼る
涼風や分る和尚の宝
門さみ蔵ぬりよ涼けり
さしさまの人の居つる書院内
涼しさや今まで居る楽社
涼しけ家を見よくりり舟
夕さみ夕新しつる付けり
水うせ井は苔ぬるとも
手庫に打て苔の涼る船

京

聖菓
義雅
一函
梅室
芹舎
子格
田誓
茶静
乙由
其角
五徳

打ち

清水

一具　永年　鈴鹿　林曹　[illegible]　[illegible]　出来　一巻　許六　紅七　[illegible]

清水の七草つまでく夢のけり　皷雪
あるまじき砂の出る日も清水哉　遠流
色色を笠にまとわる芒清水　雪鶴
清水や岩根をもれぬ苔清水　清菫
藤なみ出て赤き四つ清水哉　松竹
秋入るや水のけもあり清水哉　芙兆
立枯の山もあり清水哉　左示
清水や尺に居れる歩けの年の嶋　梢山
清水より少し雲月の流の去　信年
玉箒の二年三年清水哉　園女
夢に箒箒をもちて清水の夜　士朗

生りたる蕎麦の木清永
二人してもぎ人たる清永
一束へ送のまゝ清永の那
さゝてもぎ物のゝ清永
清永清永那分の清永の那
吉野さんさゝんさけ岩清永
四五軒さ岩ゝ鶴山清永
清永のゝ野ゝ枝ゝ包ゝ
吉野さゝ岩へ送へ清永
野さ蕎麦吉野細き清永
接人のやんゝぬ清永の那

万和
魚村
胡人
牡有
南牧
壷天
稲居
旭湖
壷那
素樸
永光

素柳
聖蕎
物室
物面
學朗
四學
岩分
乃ゝ
乗本
伯遠
江月

一口に笠の細ゝ清永の那
ゝてゝ和ゝ清永
廣ゝ清永の那
泡ゝ白粒ゝ清永
吉野ゝ廣へ岩の玉清永聲
堀根ゝ出ゝ川ゝ清永
蕎麦の蕎麦表ゝ清永
挽ゝ人ゝ清永
教ゝ蕎ゝ野ゝ清永
源孔生ゝ吉野ゝ清永

清水くらべ　高野山

踏　雲

火鼓屋のうへ　高野山

鏡物の人形　清水

菓子　清水

晒井

さらし井や　信濃

晒井や　男鹿

一杯酒　一杯さけ　箏の

人とる　雪ぬる　一杯酒

其源　桃李　阜池　伊丹　曲阜　丁知　氣重　清水　百姓　蕙方　道意　壮賢

盗人　清水　一杯酒　茶静

清水の水酒　心方　心方

明礼のよ　本の　心方　其角

新茶や　蘆屋町の　心方　子格

ちらちら　の内　心方　二丘

松茸　茸　心方　秋之坊

庚申馬　心方　心方　空物

心方　心方　心方　由磬

蕎麦　蕎麦　蕎麦　

蕾乾平一百部きき椿ゝ乾魚　竹窓
蕾乾平一庭静ゝ息つゝえ　実椿
俗汁　俗ゝ乾ゝ汁　椿合
ゝ庭ゝ一百平俗ゝ汁　雞鹿
俗汁平かゝ墨ゝ乾ゝ海　南枝
乾飯　乾飯ゝ漬ゆゝ一口雑　擂良
乾飯ゝ菓ゝ乾ゝ酒ゝけゝ　紫静
乾粉　乾の粉のきゝ乾尾　美村
冷物　乾ゝ月乾ゝけり冷物　慈光
干飯　干飯や春ゝ軒ゝ口あ春ゝ　家和
椿干　椿ゝ一平椿干部ゝ一庭宮　道長

漬取　富世ゆゝかゝゝ漬乾木　五昭
枇杷　菓ゝ月ゝ墨ゝ春ゝ冬市の枇杷　三峡
李　菓ゝ乾の赤い李ゝ乾ゝ　一茶
楊梅　楊梅ゝ五庭ゝ赤ゝ能菓　文鯉
林檎　ゝ月ゝゝゝ月ゝ　其角
ゆゝゝ紅ゝ紅ゝ月ゝ　百里
清和ゝゝ林檎漬ゝ赤ゝ　尚白
ゝ月ゝこめゝ女車ゝ往来ゝ那　一烟
百日紅　ゝ乾ゝゝゝゝゝゝ百日紅　其角
赤ゝゝ乾ゝ赤ゝ紅ゝ数日ゝ　支考
咲ゝゝ百ゝ乾ゝ　百明

中にたちまじる百日紅　素柳
雨さはやかなり竹の葉の紅　桃鳴
日ながら雪をもちしぬ百日紅　姫山
やとりせん藜の杖に背をもたせ　士茂
元政の軒かたつむる藜　西鶴
我さはあらぬ杖ぞ藜　惟然
苦菜
苦菜や魚の味　亡秀
苦菜の名の人めつる嘉かり　巴山
渡宵花
渡宵や日ながら色なく雪ぶり　万子
蘭花
蘭の花や雄つるぶる里　完来
鳴

蘭の花や波よりうつる宵ぶり　抛可
蘭のくれよりくれの酒をれ　此筋
三日月のいつ出ぬ麻　衆仏
けぶりの外に家めつらしや　さつ麻
さつあさぶくみを麻　一笑
夏苧
夏苧やうりはらうて白ぶり　相雨
夏苧や見まれくるる所　一指
夏苧の中なき境ぞ　洞天
夏苧やさつ知なき境ぞ　撥月
青芒
袁ぶり青芒や青芒　二童
魚の血に降くあるや高山　一映
釣糸
釣糸を流れ分ける名をへて　越人

警芋　警芋の中に一明るく見ゆ　素芝
恩愛　恩愛の むらかむ 絶まれ　白雄
風葉　風葉の匂ひもむかり 夢社先　二津人
赤蘇　赤蘇はくり 夜赤 ひらかり 色　用化
青鬼灯　鬼灯や 赤 ひらかるもと 鈴の那　子規
萱草　萱草の 人の 摩 まれ 草　知流
麻　麻の 袋 ぬ ぬ 蓮の那　東山
　　麻 ぬ ぬ 蓮の那　惟外
　　萱草の 草 色 草　涼莫
　　麻の 袋 ぬ ぬ 馬 蓮　李晨
　　麻 ぬ ぬ 蓮の那　梅宝

綿花　綿花の 中 麻 茶　護物
夏蕣　夏蕣の 涼 涼 蕣　素堂
鼓子花　鼓子花の 茶つき 涼 色 鼓　恒丸
　　鼓子花の 茶 鼓　朱渓
　　鼓子花の 茶 鼓　何中
　　鼓子花の 茶 鼓　二柳
　　鼓子花の 茶 鼓　馬印
　　鼓子花の 茶 鼓　芝阿
　　鼓子花の 茶 鼓　聖坡
　　鼓子花の 茶 鼓　支考

一具
素柳
寸長
白紙
學朗
丁出
南枝
芸乳
蓼古
魚丸

夕部

梅宮
玉代
玉束
聖丸
真角
山外
沙鴉
芸乳
芍丸
丁加
阜池

[illegible]

孤角　一茶

洗瓜　許六

慈光

青瓜　黄色人の名付たる事歟

むさぼりしらるる事歟

一茶

瓜　瓜の人を加へて呉けり瓜の種

苔孔

詞多くは瓜なる女の郷

蓑村

白うりや月見よりよそめられ

南枝

甜瓜　初生葉とそうやうの物

[illegible]

むしの歯の話しうしの生葉

猿雄

生葉むくの意涼しく瓜の事

[illegible]

新麦　新麦や葉ひ月に刈残し　久堀

四季取　棟の花と大勢と来る四季取

一茶

午刻はとはとの人を庵の中四季取

住年

川特　川特や罷も出る世話も孔

寿花

川特や雲をもしし　丘孔家

大江孔

川特や聲の名呼く多祝ひ

保吉

川特やうしろ四季小松拾

節之

川特孔師よ遠の川中拾の方子

川丈

小鮒　みの笠もまく紙笠小鮒賣

子格

鯖釣　鯖釣や雲をかしら泥孔人

文遊

沖鯨　沖鯨の笠の雲や渡路盆

蝶夢

言水

孤独利をえんとあやまりて沖縄
し鎖国をきらひ
沖縄者をやめ一人二枝うけ

豆腐　山人の豆腐をもとめ
ありてこれを都おもひ
帰るおせんこ
こあの所のこの家味
噌和豆腐の
豆腐　豆やせよ能国志の小食なり
豆やせを意をこ人をこれを
常生のくこをやせ知るを胡ひこれ
豆腐の我ものこれ

八茅
晩春
姫山
桃妖
寺仏
脇非
白貢
其角
風子
去留
夢古

豆神楽　郷分より神らかり生せ豆神乗
川なりは酒流きてなつ神乗
清稜　姫ゆ塊ものれつ来流せ清稜川
豆こしひ日の行ものを中陳弱為
人豆の鶴をも越けの清稜川
雷鳥こ沙汰ものを長こ稜乗
志つとりと清稜のあ中国の俳
清稜川ものこの稜けーこを
川下ゆ出山ぬ清稜乃秋
夢ようて・・・ものを長稜ゆ
芸ものを嘩　投けり清稜川

黄村
嘯雲
其角
嵐雪
宗因
子規
南枝
乗美
抱像
古瑳
夢

[illegible]

松のけの[illegible]

川[illegible]を接竹の[illegible]

茅輪

烏帽子[illegible]

子を通て茅の輪を潜る夫婦

[illegible]

白雲中茅の輪を[illegible]

五地の子[illegible]

[illegible]のやうに[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山陰道丹波国桑田郡八幡村名
明治廿四年四月調

鬼谷判
書
錦秀